

行方市 総合計画・総合戦略

計画期間

令和 8 (2026) 年度～令和 12 (2030) 年度

人口減少、地域医療、子育て、働く場。

これからの行方市に必要なことを、市民と一緒に考えました。



国内有数の農畜
水産物の産地



豊かな自然環境
と美しい景観



地域資源を生かした
多様な観光資源



ロケ地のメッカ
視聴者の心に残る聖地

\市公式ホームページに掲載中/



◀行方市総合計画・総合戦略
は、こちらから

行方市における総合的な行政運営の最上位計画である「総合計画」と、地方創生の推進を図る「総合戦略」を一体的に取りまとめた計画です。本計画は、行方市が目指す将来像の実現に向けて、長期的なまちづくりの方向性を示すものであり、計画の策定および実行に当たっては、行政だけでなく、市民や各種団体、地域などが参画・協力して取り組んでいくものです。行方市が将来にわたって活力と魅力にあふれ、市民一人一人が安心して暮らせるまちであり続けるため、市が有する地域資源を最大限に生かすつ、少子高齢化や人口減少といった課題の克服を図り、持続可能な地域社会を構築するための具体的な方向性を示すことを目的としています。

行方市総合計画・総合戦略とは？

行方市の“いま”と“これから”

人口の推移と将来の目標

2005年（合併時）

約4.0万人

2025年（いま）

約3.0万人

2045年（将来目標）

約2.0万人
を維持

まちづくりの基本理念

1



今暮らす人にとって、安心して住み続けられるまちであり続ける

2



働く人にとって、価値のあるまちであり続ける

3



若い人にとって、将来の希望を描ける魅力的なまちであり続ける

4



離れて暮らす人にとって、応援したいまちであり続ける

関わる人を増やして、地域の力に

将来人口の目標



人口の推移



関係人口とは？

移住した「定住人口」でもなく、観光客の「交流人口」でもない、特定の地域に継続的かつ多様な形で関わる人たちのこと。関係人口の拡大などにより、地域の活力を維持していくことが期待されます。

みんなで考えた、未来のまち

高校生による未来のまちづくりを考える会

まちづくりの課題解決のヒントを得るため、これから社会で活躍を始める高校生を対象に、「若い人が行方市に住み続ける」または「行方市に戻って暮らす」ために必要な方策について、話し合いました。



複合施設の周りに商店街があるといいな。

ゴルフコースなどの広い空間を使った音楽イベントを開催しては？

空き家を勉強場所やフリースペースとして活用してはどうか？

車がなくても生活しやすい地域になってほしいな。

行方市の働く場づくりワークショップ

行方市の仕事づくりや働く環境について、市の強み・弱みに加え、外部環境における機会と脅威などを整理し、潜在力と課題を再確認するとともに、新たな仕事づくりの可能性について、議論を深めました。



サツマイモを利用して、都会の家族の一口出資を募集しては？

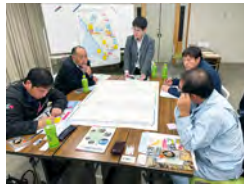
豊かな自然を売りにしたゲストハウスを整備してはどうだろう？

工業団地内に飲食店が出店できるように働きかけては？

二地域居住での事業承継を推進しては？

行方市に新しい人の流れをつくるワークショップ

地域のポテンシャルを生かし、行方市ならではの産業や商工業と結びつけたアイデア出しなど、人の流れを呼び込み、持続させるための仕組みづくりについて、意見交換を行いました。



ウォーターレジャーの体験施設を造れないかな？

二地域居住などによるローカルビジネスを推進しては？

シルバー人材ガイドによる観光案内企画を実施しては？

茨城空港から行方市までの観光交通手段を強化してはどうか？

行方市の結婚・出産・子育ての希望をかなえるワークショップ

人口減少に歯止めをかける上では、子育て環境に関する支援が不可欠であるため、安心して結婚・出産・子育ての希望をかなえられるよう、どのような支援策が求められるのかについて、議論を深めました。



いつでも子育て相談ができる場所が近くにほしいな。

農業体験、田舎生活など、都会にはない行方市の強みを出していくといいね。

子育ての課題を、地域の課題として共有化してほしい。

子育て世代が住みやすい住宅支援をしてはどうだろう？

\子ども版も作りました/



多くの人に知ってもらいたいという思いから、小学生に分かる文で作りました。




なめがた未来のまちづくり協議会
秋山 義継 会長
(拓殖大学名誉教授)


このたび「行方市総合計画・総合戦略」の審議を通じて、多くの貴重なご意見をいただきました。少子高齢化が進む中、全ての市民が「豊かさ」を実感できる社会の実現や、地域の魅力を共有し郷土への愛着を育むための取り組みの必要性について、活発な議論が交わされました。さらに、地域のつながりの希薄化が進む現状を踏まえ、祭りや伝統行事の継承、地域コミュニティの強化、次世代の担い手の育成の重要性にも注目が集まりました。これらの意見は、行方市の未来を形作る上で欠かせない視点です。今後も、市民の声を丁寧に聞き取り、地域の特色を生かした、より良いまちづくりが進められることを期待しています。

個性ある価値の創造と関係人口の拡大を目指して 重点プロジェクト～みんなで行う6つの大事なこと～


1 健康・福祉・子育て
誰もが健康で安心して暮らせるまちづくり
近くの医療機関でいつでも診てもらえるようにすることで、安心できるまちをつくること




2 教育・文化・スポーツ
豊かな心と健やかな体を育てるまちづくり
元気な子どもたちが育つまちや、安心して学ぶことのできる環境をつくること




3 産業・観光・雇用
にぎわいと活力があふれるまちづくり
新しい仕事をつくるなど、働く人を増やして、まちを元気にすること




4 防災・環境・エネルギー
災害に強く環境にやさしいまちづくり
災害への備えを進め、安心して暮らせるまちをつくること



5 暮らし・インフラ
便利で快適な住み良いまちづくり
みんなの暮らしに必要な道路や水道などを整え、住みやすいまちをつくること



6 行政マネジメント
新しい時代に合った持続可能なまちづくり
何からやるかをよく考えて、みんなで力を合わせて、大事なことから進めること



※子ども版から抜粋

行方市が目指す「都市将来像」

1人1人にとって豊かで魅力あふれるふるさと、行方

行方ならではの個性ある価値の創造と、
人とのつながりを大切にしたい関係人口の拡大を目指して

市民意識調査

市内に住む皆さんの声を聞かせてください！

7月
実施予定


市では、令和8年度市民意識調査を実施する予定です。市の住みよさや愛着度、市民ニーズや満足度を把握・分析することで、今後の市政運営や政策立案に生かすことを目的としています。市の持続可能な発展のために、積極的な回答をお願いします。


対象者
市内に居住する満18歳以上の方

回答方法
インターネットまたは調査用紙で回答
※調査用紙は、各庁舎窓口や各公民館にも設置する予定です。

過去に市民意識調査で出た意見は、市の事業に反映されています

 給食の負担を減らしてほしい
↓
給食費の完全無償化

 市内や市外への移動をもっと便利にしてほしい
↓
定額タクシーが日中も利用可能に。また市外にも行けるように

 子どもの医療サービスを充実してほしい
↓
オンラインで24時間医療相談



【問】企画政策課（麻生庁舎）
☎0299-72-0811